

静岡ブルーレヴズ ラグビースクール

2024年 釜石遠征活動レポート

2024.9.21 - 22



遠征目的

- 絆ジュニアマッチによる同世代選手と交流し、絆を深める
- 震災学習を通じ、東海地区に住む子供達の防災意識を高め命を守る

9/21

- 宝来館女将 岩崎さん講話
- いのちをつなぐ未来館見学
- 交流会

9/22

- フランス国歌斉唱
- 絆ジュニアマッチ

Special Thanks

始めに、この場をお借りして釜石市の皆さま、日本製鉄釜石シーウェイブス／アカデミー・弘前サクラオーバルズの皆さま、また本遠征を実施するにあたり多大なるご支援、ご尽力を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

釜石遠征も4年目を迎え、ラグビーを通じた同世代の選手との交流はもちろんのこと、震災学習でも自然災害の恐ろしさを知り、自分事として捉え、「自分で考え、行動する」大切さを学びました。

この地に訪れること、現地でしか得られない学びや経験ができたこと、静岡ブルーレヴズRS一同にとって大変有意義な遠征となりました。この遠征を通し、一人の人間一人の選手として大きく成長していくことを期待しております。

最後に、今年も無事に「絆」を紡ぐことができ、大変うれしく思います。また来年も「絆」を紡ぎ、新たな「友情」を繋げられることを心よりお祈り申し上げます。

静岡ブルーレヴズラグビースクール 監督 藤井 達也



Special Thanks

釜石遠征 支援企業／支援者 一覧

株式会社東海トラベル 様

<https://www.tokaitravel.co.jp/>

株式会社ジェイ・プラッカ 様

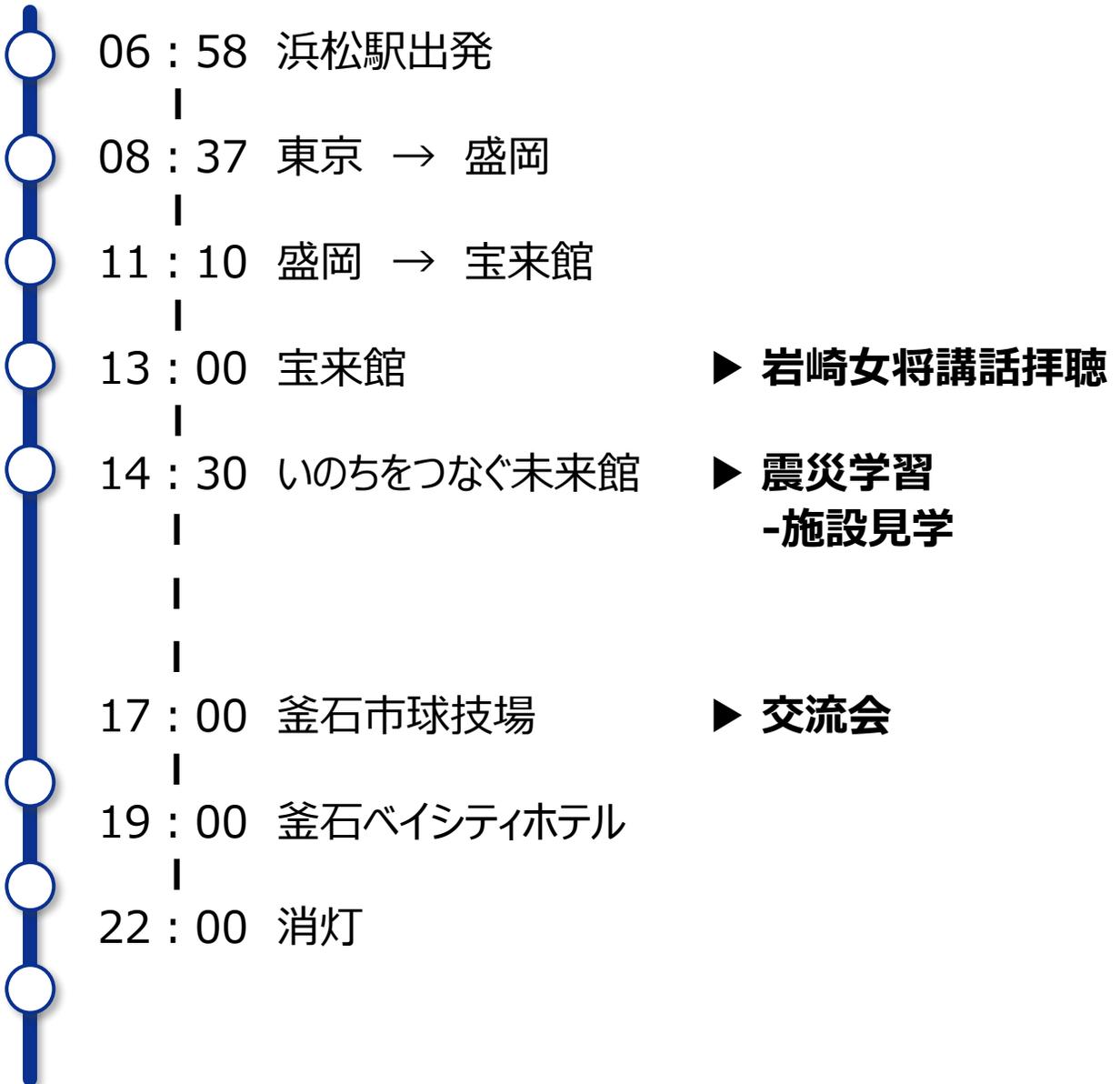
<https://www.j-placa.jp/>

稲垣 剛 様

水野 久美子 様

2024年度釜石遠征にご支援賜りました皆様へ、
この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

【 行程 】 ～1日目～



【 行程 】 ～2日目～

- 
- 07 : 30 朝食
 - 09 : 40 ホテル出発
 - 10 : 00 釜石鵜住居復興スタジアム到着
 - 10 : 50 フランス国歌斉唱
 - 13 : 30 絆ジュニアマッチK/O ▶ 釜石シーウェイブスアカデミー
弘前サクラオーバル合同
 - 15 : 00 釜石鵜住居復興スタジアム出発
 - 17 : 18 新花巻出発
 - 20 : 12 東京駅出発
 - 21 : 34 浜松駅到着 解散

震災学習 宝来館／いのちをつなぐ未来館



絆ジュニアマッチ 交流会



絆ジュニアマッチ

静岡ブルーレヴズ
ラグビースクール

5 - 38

釜石シーウェイブスアカデミー
弘前サクラオーバルズ合同

被災した学校の跡地に建設され、釜石の人々の様々な思いが込められている特別なスタジアムで絆ジュニアマッチが開催されました。

あいにくの雨の中、試合は釜石シーウェイブスアカデミーボールでキックオフ。前半2分35秒、自陣22mセンタースクラムから外までボールを運ばれ、シーウェイブスのトライ スコアは0-5。

その後レヴズも攻守ともに奮闘するも、見事な展開により立て続けにトライを奪われてしまい、0-26でハーフタイムへ。

後半も開始早々2トライを奪われますが、レヴズは後半14分に相手ドロップアウトからキャッチし、そのままトライへ。その後試合は動かずノーサイド。



絆ジュニアマッチ



SHIZUOKA BlueRevs RugbySchool 静岡ブルーレヴズラグビースクール

スクールミッション

ラグビーを通して子どもの好奇心を広げ、

「人間力」と「技術力」の向上をサポートします！

静岡ブルーレヴズラグビースクールでは、お子様を対象とした通常クラスから大人のクラスまで、すべての年代に、スポーツ・ラグビーの楽しさを感じていただくことを目的としています。

ラグビーのコアバリューである「品位」、「情熱」、「結束」、「規律」、「尊重」を大切に活動します。

みなさん、一緒にラグビーを楽しみましょう！



■コーチ（年中、U-10、U-15、事務局、アカデミー）

氏名：加藤 圭太

選手経歴：2006年～2018年ヤマハ発動機ジュビロ在籍
トップリーグ出場 100試合以上

■コーチ（年中、U-10、U-15、事務局、アカデミー）

氏名：藤井 達也

選手経歴：2013年～2017年 ヤマハ発動機ジュビロ在籍

静岡ブルーレヴズラグビースクール参加者

No.	氏名	学年	性別
1	山口 結士	1	男
2	三角 佳士	1	男
3	天野 元森	1	男
4	森下 陽向登	1	男
5	岩瀬 裕人	1	男
6	渥美 葉月	1	男
7	野田 和希	1	男
8	東風谷 龍之介	1	男
9	和田 唯音	1	男
10	鈴木 祐羽	1	男
11	伊藤 駿太	1	男
12	石津 翼	1	男
13	河合 佑稀斗	1	男
14	遠藤 豪騎	1	男
15	小川 護士朗	1	男
16	山下 遥也	1	男
17	豊田 快	1	男
18	多米 悠一郎	1	男
19	増田 稀一	1	男
20	芥川 響	1	男
21	新井 実悟	1	男
22	江塚 周	1	男
23	兼子 迅	1	男
24	金山 大希	1	男
25	野呂 叶成	1	男
26	岩本 怜大	1	男
27	鈴木 康馬	1	男
28	太田 凧	1	男

スクール生レポート

震災学習では、津波と地震のおそろしさを学びました。
宝来館での女将さんの講話をきくと釜石市と静岡での
関係を知りました。女将さんの実在の体験した話を
きくとどれだけ被害大きかったことかと思いました。
震災のさい釜石市全体に「ウーウーウー」というサイ
レンがきこえ入々津波が来るとすぐに分かったでしょう。
警報の時30mの津波というし必ず津波がくるという
ことでした。それを聞いた釜石市の人々はすぐさまに行動
し避難したことがとてもよく自分もこのような対処をとら
ないと思いました。いのちつなく未来館/釜石 祈りのパーク
では、特に、小学生や中学生の避難が心に残っています。
強い地震がくると中学生は外に出ておさまるとかさま並んでなるべく
高い所へ避難したそうだが小学生と交流者と手をつなぎ、はいて
つかえたそうだが自分も今中学生なのでこの時の釜石市の中学生のよ
うな行動をとれようになりたります。2日目の試合では、後半の途中
からの出場場で少し入りが難しかったですが短い時間だか
らということもありそれ以上にいろんなプレーに入る事ができ
ました。しかしいつもとは、ちがく走りにくい雨にしてもオーバ
ーの入りやオーバーの人数を考えるといいなかったのはくやし
かったです。チームとしては、よい所もあったが悪い所が多
かったです。僕は、この釜石遠征での2日間で学んだ
ことをフグビーや普段の生活面ととらえて考えてこの
遠征の大切さに気づきました。

ぼくは、この釜石遠征に行つて土世震への備えが
必要だとあらためて知ることができました。宝来食官での
お話では釜石復興スタジアムがあった場所はもともと
小学校、中学校があったけど津波によって学校が流
されてなくなつてしまつて、それでも希望が欲しかつたから
ワールドカップをやつてほしいといつてそれで2019年ワールド
カップができたのでとてもすごいと思ひました。宝来食官の人
が言つてくれたけれど「ウーウー」といふサイレンが鳴つたら、津波け
いほうが発表されているといふことだからすぐにはなんしない
といへないことが聞いたことがなかつたので、これからお生活
にいかせるとおしほした。いのちをつなぐ未来食官ではひな
ん所は仮のきよてんとして生活するところではひなん
場所、場所は命と安全を確保する場所といふ違い
を知ることができました。次の日の試合では
釜石でラグビーをさせてもらつてくれるので感謝の
気持ちをもつてラグビーすることができたし、昨日
の話を聞いて当たり前のようにラグビーができて
いるけれどそれが当たり前ではないといふことをし
かり考えてプレーできたのでよかつたです。一
でもし、かりラグビー以外の場面で自立でき
ていなくつたので、これからは自立できるようにして
いきたいと思ひました。これからは日ごろから地震に
ついて考えたいと思ひました。

僕は震災学習で、静岡県と釜石市が「古いときから関係があったんだ」と思いました。聞いたことがないサイレンがなったときは、津波警報だと思い、すぐ高い所に行くことを学びました。宝来館の女将が「30cmの津波でも危ない」とおっしゃっていて、津波は本当に怖いなと思いました。子供たちは99.8%も生きていて、残りの0.2%は本当に悲しいなと思いました。でも、99.8%も生きていて防災意識が高いんだなと思いました。女将が「宝来館の人間はもどらない」とおっしゃっていて、津波がく返ってきていたんだなと思いました。女将が「人のために生きろ」とおっしゃっていて、自分にすぐささったなと思いました。いのちをなく「未来館で、釜石の地理を学び、津波がきたとき危ないな」と思いました。釜石の死者・行方不明者が927人もいて、すごく悲しいなと思いました。63mの防波堤が「6分で」こわれてしまっ、水の勢いがつよかったんだなと思いました。「ひなん訓練はやるだけじゃない」とおっしゃっていて、ひなん訓練をやるときは考えてやりたいなと思いました。

僕は9月22日の試合で、オーバーに入れたけど、タックルは、あまり入れていなかったなと思いました。1回だけいいパスができたので、これを何回もやりたいなと思いました。僕は、この震災学習で、僕の防災意識がすごくあがったなと思います。

今日は宝来館での女将さんの話といのちをつなく
未来館(釜石祈りのパーク)でのお姉さんの話を聞
きました。宝来館での女将さんのお話では当時の人が避難
した所で撮った動画を見させてもらいながら当時の本場の
話を聞く事ができ、おそろし、こおさなどを知りました。

いのちをつなく釜石祈りのパークでのお姉さんの話では、お
女将さんの所で聞いた見たりした物がありはしたけど、実際祭
数寄として見た時の違いを感じる事ができました。そして、女将
さんも釜石祈りのパークのお姉さんも、川、また他の事も多く
はいけんしているところなのですが、これは話してくれずとは関係
なく本当にぼくが感じたことで、この二人は学校で何度も聞
いてきた人の中でも言葉の重みを感じました。女将さんはずっとニコ
ニコしていたけど言葉にじぶんの悲しみのような物を感じまし
た。まず1日目非常にありがたいお話が聞けたのでよかったです。

二日目の今日は試合がありました。結果としては、
負けてしまったのですが、ふり返ると負けてとうぜん
た、たのかもしれない、ちこは少しさかいだりしたのを
思い出すとプレイに出してしまったのかと思います。
でもプレイに出たのをふまえてもどちかに負
けていたんじゃないかと思えます。プレイの部分でか
負けしていたし、パスも通っていたのでどちらの面でも
も負っていたのが非常にくわしいです。次があるなら
も、とがんばりたいです。

僕は今回の遠征で学んだことが2つあります。まず1は、震災学習についてです。震災学習を通して、震災が非常に悲しい出来事であり、多くの人々が家族を失うことなることを改めて感じました。宝来會館の女将さんの話では、自分達の街が津波によりこみよみよ壊されていったというのを聞いて、とてもショックを受けました。そして、女将さん自身も津波に流されたというのも強い衝撃を受けました。1のちを2つなく、未来會館では、中学生達が素早い避難で助かったという普段の防災意識を見つめ直すことができました。津波などの自然災害は、必ず起きます。生きたい人も生きられないです。で、おかしな所での話を聞き、常に危機感をもって行動することの重要性を再認識できました。

2つ目は人としての当たり前前の行動です。僕は、レグスの代表でありながら、周りの人に迷惑な行動をしていました。通行人の邪魔になるように待機してたり、さかしかつたなど。おそれ、何よりも、遅刻です。朝食に遅れる人が3人、出発の時の集合に遅れる人など、普通ではありえない事してしまいました。レグスの代表を背負っているのに、僕はその意識が足りませんでした。そういう行動が試合に出たのか試合中のミスが目立ちました。次回の遠征では、二度とそのようなことがないように気を付けたいです。今回の遠征では、良いことも、悪いことも実りのある遠征になりました。

私は今回ので釜石に三回行ったことになりましたが、
命をつなぐ未来食官はとても素晴らしい話を聞かせてもらい
ました。1896年6月15日に大波がきました。人々が死んで
しまいました。その中でも私はボウサイセンターのみんなが
いが本当に悲しいです。波がくるまでになしにかいへ
んに気付かなかったのかなと思いました。

ですが、そんな中でも釜石の小中学生は自分たちが
いる学校のいへんに気づき、先生がさうていを見るとき
には、ぼくさい言川系東のようにグラウンドに集まってい
ました。そして、ひなんしてパニックになっても
先生の言舌が大人の人を聞いて、すぐにつぎの場
所へ移動できていて本当にすごいなと思いました。
私は今回、釜石の災害について勉強させてもらいま
したが、自然災害はとてもおそろいなと思いました。言舌を
聞いてもっと言調べてみたくなりました。家に帰ったら言調べ
たいです。

釜石遠征を通して自然災害の恐ろしさと災害の見方を改めて再確認することができた。

まず僕は室来館の中将さんの話を聞いた。震災の時の話しを鮮明に話してくれた。僕も南海トラフ巨大地震の危険のある地域に住んでいるから他人事のように思えなかった。そして中将さんは静岡と釜石の繋がりにについても話してくれた。震災の映像も見た。とても恐ろしいと感じた。南海トラフ巨大地震が来た時も冷静に判断した方が良かったと思った。次に僕は命をうなく未来館へ行った。そこでは当時中学二年生だった人の話を聞かせてもらった。ここでは避難所と避難場所の違いや様々な映像や展示、お風呂がまっすぐを周りながらこの東日本大震災の被害や恐ろしさを教ってくれた。これからの生活に今からでもすぐにできる震災対策も教ってくれた。日々の防災訓練も真面目に取り組めたいと話も聞いた。

最後に僕が釜石遠征に行っていたことはいついかなる時も油断してはいけないこととしかが次対策をしなければ守れるものも守れないということが人生に一度あるかないかが分かるほどの貴重な体験をこの遠征でできた。釜石で学んだことをこれからの生活に生かしていきたい。

私が今回の2024年 釜石遠征震災学習
で学んできたことを順を追って紹介します。

1つ目私たちはまず女将の話を開きに有名な宝来館
に行きました。以前にも震災のことについて調べる
機会はあるのですが当事者である女将の話
には衝撃を受けました。震災の事を客観的に見
た事はありませんが女将の話には信じられない事が
目の前で起きて人々が波に次々とこのまれていて
自分も波にのまれたか何とか生き残ったなどと
いうような話をしてくれました。それに加えて町の人
が実際に撮った映像を見ましたそこには波が
にげる人々の声が入っていました。それはとてもおそろ
しい物でした。それでも日頃の訓練のおかげで助か
る命が増えた。聞いた時私は訓練のおかげで助かる
命は私が思っているよりも多いなと思いました。

2つ目 命をつなく未来館 私たちは宝来館を出発し
命をつなく未来館に行きました。ここでは津波の
メカニズム、地震に対する知識。そして有名なあの
釜石の奇跡の時実際に生徒だった人から学び
について学びました。中でもメカニズムはとても
興味深い物でなぜ3階地方が津波により大きな被害
を受けたのかを学ぶ本音に良かった。お話しを聞いたの
こに書き添えたい。この思いでかゆい。エチ。釜石。この被災

ありがとうございました。

9月21日、防災学習でまが、宝来館の女将の話を聞きました。巨災前と巨災後の画像を見て僕は、本当に同じ場所なのかと思い、目を疑いました。自然災害はいつか必ずやって来る。その時に女将の話を思い出して自分の命を守る行動力をとていきたいです。女将が「静岡のラグビーが来た。」と語る、ぼくは、「ラグビーは人に元気を与え、幸せにできるスポーツ」で今まで以上にむかひと思ひ、静岡県民として、うれしい気持ちになりました。未来館では耳籠員の方が中学生の時に経験した体験談を聞きました。正しい知識を身につけて、災害から身を守るために、と災害について知りたくなりました。普段から意言載して、過ごしたいです。昨日の友達マッチでは負けてしまったけれど、自分の課題を出し、他のチームから学んだことを活かして強くなりたい。

この遠征では、しん災のこじや、とうじの小中学生たちのひなの
しかた、静岡とのラグビーの関わりを学んだ。宝来館の対峙の話では、
「もう大丈夫」や「こなら安全」と思わずに常にまわりに注意しないと
言っていた。いつくるかわからない南海トラフに備えたり、もしもあつて
まわりに注意していきたい。もし津波にのまれても生き残る方法を
考えようと思った。しん災が来たあとに釜石のラグビーチームと、ヤマハが
ラグビーの試合をしたことを聞いた。ヤマハが手をぬいたりせず
に本気で戦うことがたに地域の人たちが勇気づけられたことを
知り、自分も常に本気で取り組める人になりたい
と思った。本気で戦うことがたはか、こいいし、まほらしいことだ
と思った。

とうじの小中学生は、いよいよ山へ逃げたことを知った。99.4%の
人が助かったと聞いたけど、0.6%の人が死んでしまったのは、とても
悲しいことだと思った。

ひな人訓練をたくさんしていても0.6%の人が死んでしまったから、
自分たちはもっと集中してひな人訓練に取り組んでいきたい。試合では
負けというレベルではないと思った。ランスポートもディフェンスも、
すべてに大差があった。スタントオフである自分が、試合の
流れをコントロールできなかったことが、負けの原因だ
と思った。その他にも、バックス全体も体をはたプレー
できなかった。

自分も、ボールをもちやすくてパスをするだけで、前に出る
ことができなかった。前にスペースがあったら、自分で前に出て、
少しでも前に進めるようにしていきたいと思った。も、と
戦術を理解して、人をうまく使えて、はんだん力のある
スタントオフになるために、せんはのいのかきやど、
プリーグの選手たちの重かきを見たりして学んで
いきたい。

この釜石遠征を通して学んだ事は二つあります。

一つ目は、防災学習です。

東日本大震災は元から知っていて、津波で多くの方が亡くなった事も知っていました。

でもどこにどんな事が起きていた、までは知りませんでした。

でも、女将の講話と、いのちをつなぐ未来食館でさむらいなことを知りました。

女将の講話では油断してはいけない事をまなびました。未来食館では最後まで諦められない事、実際に被災した人の話を聞くといろいろな気づきなどがありました。

二つ目は、絆マッチです。

絆マッチでは、まだ「まだ自分達のチームが弱い」事知りました。

個人個人ではまだあまり差はなかったけど、チームの連帯心などは相手の方がすごかったです。

ディフェンスも連帯心がかたれていなかったのでも、次からは、周りをよく見ておこの人と連携しながらディフェンスをしたいです。

まだまだできていない所が多く見つかったのでも、次からは少しづつ直していきたいです。

この遠征を通じ、生活面などさまざまな面でも直さなくといけない所があったのでおかし、次につなげたいです。

私は釜石での災害学習を通して、深く胸に刻まれたことが4つあります。
1つ目は、「地震や津波を経験しているから大丈夫なわけではない」ということです。
その予想をはるかにこえてくるものがあるので、油断してはいけないということが分
かりました。2つ目は、「小さい地震だから津波はないと思ってはいけない」
ということ。昔、釜石では地震が別の場所でおきたのに津波がきたという事例
があります。3つ目は、「ひな人所とひな人場所のちがひ」です。ひな人所と
は、仮のきてんとして生活する場所であり、ひな人場所とは、自分の命と
安全を確保する場所だということがわかりました。それを分かっていない人々が
ひな人所へ行き、多くの命を落としました。4つ目は、「災害に備えることは決して
悪いことではない」ということです。私の地域は南海トラフ地震が起こると言わ
れているので、水や食料などを集め、備えていきたいです。

2日目のラグビー交流マッチでは、釜石シーウェイブスアカデミーと弘前サクラオーバルズウ
合同チームをジュニアマッチを行いました。釜石のみなさんとの交流をかねての試合
でした。結果は38-5と負けてしまいました。その主な原因は私は2つあると考えます。

1つ目は、生活態度です。ホテルでの集合時間が守れなかったり、ずぼらとしゃべって
いたりして、甘ったるい生活をしてきたのが、この結果に繋がったと考えました。

2つ目はサポートです。遠征が糸冬終わった後、Youtubeで今回の試合と今の2年生が
行ったジュニアマッチを見比べました。それで思った大きなちがひがサポートです。去年の試
合ではぬけた後もしかりとサポートへ行けていましたが、今回はぬけた後のサポートが
おそく、相手ボールに何度もなっていたのが2つ目の原因だと考えました。

この遠征を遠くして、私はこれから練習を真剣に行うことや、試合前日にみんなで作
戦を考えることを決めました。

僕は今までに熊本県に地震のことを学びに行きたことはあり
ました。ただ、釜石などを含めた津波の被害を受けた地域で、震
災について学んだことはありませんでした。また、東日本大震災が起き
たときには僕を含めた中学1年生はまだ生まれておらず、津波の映像
もテレビ越しに見たことしかなく、津波を他人事のように思ってい
ました。まず僕たちは宝来館で女将さんのお話を聞きました。女将
さんによると昔から釜石と袋井は「鉄」つながりとして、東日本大震災
で釜石を津波がおろしたとき、ヤマハ(レガシ)の人や袋井の人からたづ
ねよりも早くかけつけられ、助けられましたということ。その絆がずっと続
いていることに感謝して、その絆を自分たちの時代で「絆色」を
学んだことを未来に伝えていくのが僕たちの役割だと思いました。
女将さんが近いうちに必ずいふと言っていた津波にそれこそ、お母さん
知母の言い伝えを宗で宝来館の裏の山に、道を閉じて津波が来たとき
にすぐに逃げられるようにしたこと。宝来館に閉まっている人の命を守り
ました。僕も、いずれ来るであろう南海トラフ巨大地震に備え、食料の備
蓄を石倉かめちや家族で「ハザードマップ」を見たりして、自分と周りの人の
命を自分が守りたいと思いました。女将さんが言っていた通り、震災
でせくなれた分も、自分たちが人の役に立てたいと思いました。次に
命をない未来館の方のお話を聞きました。ここは11mの津波が来ることで100
人以上の人が亡くなったところでした。そこにお話の中で「心に響いた言葉が
『災害は他人事ではなから』という言葉でした。今まで他人事だと思っていた震災が津
波の被害が一気に自分事のように思えてきました。これからはいづるか分ら
ない災害に備え、せくなれた分も命を大事にして生きていきたいです。

僕は、釜石に遠征をし、学んだこと、反省点、改善点がある。

1日目、まず宝来食官に着き、女将の貴重な実体馬券、動画を見せてくださった。動画では、防波堤を軽々と越える黒い波や街に車や家を巻き込んだ波が入りこんできていた。とても危ない状況のなか逃げ遅れた人がたくさんいた。女将が言うには、巨大な(60m)防波堤で「波は来ないだろう」と安心をしていたという。防波堤があるから安心するのではなく、防波堤があるからこそ気をつけなければいけないとわかった。

次にいのちをつなぐ未来食官に着いた。ここは、当時のままのどうだらけの、本やゲーム機などがあつた。スタッフさんの話を聞き、避難場所、避難場所をしっかりと区別すること、避難訓練はただすればいいものではなく、状況を想定に取り組みることが大切だとわかった。ここからは、1日目の反省だ。1日目は自分に対して、相手に対して甘かったことだ。釜石に来ているのは、静岡ブルーレウス^{FC}の代表として来ているので、しっかりとしたマナー、態度をできるようにしたい。2日目は直ぐに切り替えていきたい。

2日目、釜石シーウェイブスアカデミーさんと弘前サクラオーバルス^{FC}さん合同対レウス^{FC}の試合をして圧倒され、負けました。今回、勝ち負けは特に重視していなかったが他の面(マナー、態度、気持ちなど)でも相手の方が上回っていた。コーチの言うとおり日頃の行い、気持ちで点数に表れるとよくわかった。ラグビーの練習ばかりではなく人としての行動をもう一度、よく見直そうと思う。

僕は、今回の釜石遠征を通じて自然災害の怖さを学びました。岩手県は、東日本大震災の被害が大きかった場所でお宝館の女将さんは、津波の動画を見ながらお話をしてくれました。動画を見て働ききを受けました。津波は防潮堤を越えて、ものすごい勢いで追ってきました。女将さんの話では、気づいたらみぎの下まじ波が来ていたようです。そのことにもびっくりしましたが、僕が一番びっくりしたことは、岩手県に超世界一大きいわん口防潮堤が壊れ、津波がおよせしてしまったということでした。6分と思ったけれど、この6分の間にいろいろなことが起きていた時間だとも思いました。

未来館では、お話をしてくださる人が実際にひなん経路について教してくれました。僕が一番印象に残ったのは、逃げたところについて、2分もせずに津波が目の前まで来ていたこと。僕は、大きな地震や津波を体験をしたことがないですが、ものすごく小布おたと聞いて改めて自然災害の怖さを知りました。このお話を聞いて僕の住んでいるところに津波や地震が来た時に、しっかり逃げられるようにひなん場所やもしもの回事に備えた準備など家族と確認したいと感じました。また、今回入にぬいぬいをかきつけてしまったところがあると思うのでこれからはそういうのがなくなるように生活したいです。

ぼくが、この釜石で学んだことは、ひごろの防災訓練では、本当にじしんがおきていることをそうていしなからのぞむと本当にじしんがおきたときに死ぬ人数が減るということにつながるということです。ぼくは「いのちをつなぐ未来館」で話を聞かせてくれた人の学校は、なるべくすぐに外に出ていままで何回も防災訓練でやってきたことをみんなて先生がいらないなぐてんをととり、判断をしなぐら小学生と手をととりあいながらにげて無事だったそうです。ぼくはこの話をききいっもなにげなくやっている防災訓練をしっかりとやっていきたいなと思ひました。

宝来館で聞いた、話では、じしんがおきた後にくる津波は、一回くるとずとくるのではなぐ一回とまりまた動き出ぬということであとまゝから安心したり、親見を探している子どもはもう一回津波がきてしれ、一人ももどてこなかつたそうです。こゝから津波がとまゝこも下にいが高い所で持ていきたいてあ

釜石遠征にいき釜石でおきた東日本大震災
についてお話ししました。釜石が東日本大震災でか
いがいな出来館の女将はまきにいき津波のおそ
ろさが津波をおめてはいけなとお話をもらいました。

そしていのちをおい未来館にいきこのスタッフのか
たにどなたが東日本大震災でいかいがかいたのかそ
て中学校の生徒が小学校の生徒がどのように津
波からいかにたかのお話をききました。

出来館の女将はまき津波の話をききわが
なをききました。2日目にラグビーの試合で釜石
・弘前合同チームと言試合をしました。さんおんながら
でまけてまいました。もと練習をかきあなとい
ないとおもいました。

1日目は、宝来館の女将が「東日本大震災」についての講話を聞きました。女将の友人は、津波にのまれたがどのようにして助かったのかや、津波が来たらもっていた場所に戻ってはいけないうことについて話をして下さいました。改めて津波の怖さを知りました。

次に、いのちをつなぐ未来館で東日本大震災発生時の避難時間や、避難するため役立ったものをパネルや動画を使いながら分かりやすく説明して下さいました。僕たちを案内して下さい、たスタッフの方は被災者で、地震が起きた時に4回も避難したそうです。その話を聞いて、指定された避難場所に行くだけでなく、その場に応じて行動することが大切だと思いました。

夜には、釜石シーウェイブスアカデミーと弘前サクラオーバルスとの交流会がありました。一緒にご飯を食べ、翌日の絆ジュニアマッチで歌うフランス国歌を練習しました。

2日目は、釜石復興スタジアムで交流試合をしました。雨が降っていたのもあり、思っていたようなプレーができませんでした。良か、た点はハンドリングエラーがなかったことです。悪か、た点は体を張ってタックルができなかったことです。チームとしての反省点はボールの近くに集まってしまう、フィールド全体を上手に使えていなかったことです。チームで反省点を共有して次の試合で活かしたいです。最後に中学1年生でこのような貴重な経験を経ることができて、とても良かったです。東日本大震災のことを今までより知ることができたので、今回学んだことを心に刻み、自分の家族や友達にも伝えていきたいと思ひます。

僕は、釜石遠征の震災学習で、地震、津波の起き方や、実際に起こったことなどを学びました。地震は、太平洋プレートが北米プレートの下に入り、北米プレートが元に戻ろうとして起きた地震です。津波は、海底の揺れで起こり、リアス海岸という海岸のつくりで波が大きくなりました。このリアス海岸は普段、海の幸を豊富に与えてくれる、大事な海岸だと知り、悪い所だけではないということを感じました。実際に東日本大震災を経験した、宝来館の女将さんは、全国共通の津波警報や、釜石と静岡のつながりを教えてくれました。中でも一番心に残った事は、「津波はまた来るけど、生き残って人の役にたつ」という話をされた時です。「津波が来たからといってあきらめるのではなく、最後まで生き残って人の役に立ち、みんなで幸せになる」という意味が込められていると思います。僕も、どんなことにも最後まであきらめたくないです。いのちをつなぐ未来館の川崎さんは、東日本大震災が起きた時の町の様子や、釜石東中学校生徒が逃げた道を詳しく教えてくれました。釜石東中学校の生徒は、自分達で考えて行動しました。この自分で考えることを頑張りたいです。また、川崎さんは「防災用語を覚えて下さい」と言っていたので、しっかりと防災用語を覚えたいです。

緋マッチは、悔しい試合になりました。ハンドリングミスや、1対1でのタックルが上手いかなかたり、オーバーが相手より遅く、高かたなどの課題点が見つかりました。しかし、感謝の気持ちを持って、本気で試合にのぞめたことは良かったと思います。課題点をしっかりと直していきたいです。

釜石遠征では、時間に遅れたり、物を忘れたりする人が多かったです。それは、個人の問題ではなく、チーム全体の問題なので、チーム全体で注意し合い、直していきたいです。そして、静岡ブルーレヴズとして、良い印象を持ってもらえるようにしていきたいです。この経験を生かしていきたいです。

釜石にい。と感じたニはろフあります。

1つ目は自分で判断する早さです。

大正9年地震がおきたその時の中学生のいすのあった割合は、

99.8%という高い割合でいすのニ。その時の中学生ほとんどみなことより
いすにたるといすの自身の判断もそうだし。

ガス栓をしめたり、ブレーカーをおとす人が多かったので

二次災害のニを考へるニかできるのも判断の早さが
と思ひました。

2つ目の冷静さです。

ふつう地震がおきたらパニックになつて避難がでないし、
津波が引いたら家の様子を見めいたりしてはるので

冷静さがあるかないかで釜石と静岡で生残る割合
も大にちがふと思ひました。

3つ目は十助カするニの大切さです。

災害がおきたからニを助カ合つて協カしているニに感謝
ほした。

ラグビーは協カして成り立っているので大事にしほしく

釜石でなつたいすのニをニからのラグビーに
ほしたいてす。

私は、釜石遠征を通して学んだことがあります。それは、地震のような災害が起こったとしても、小荒れたり油断せずに次に起こることを考えて冷静に行動しなければいけないということです。私は一日目に宝来食官という場所に行き、そこで女将さんの講話を聞かせていただきました。その時実際にあった津波の映像を見たのですが、高い建物に囲まれている場所にいた人たちは、津波がすぐ近くまでやってくるのに足もとに津波がくるまで気付いていませんでした。きつと津波が見えていないことで、「まだ逃げる時間はあるから大丈夫だろう」と安心してしまい、逃げ遅れてしまったのだと思います。他にも多くの事を学びましたが、釜石の同世代の選手と交流をしたり、新幹線に乗ったりして楽しい思い出もできましたと思います。糸半マッパでは！勝つ事はできず負けてしまいましたが、自分のできていない所を改めて見直す其月会になったと私は思いました。そして、釜石だけでなく多くの場所で災害が起こっていて、今でも苦しんでいる人がたくさんいます。ここで学んだ事を覚えておくだけでなく、次の世代の人たちにも伝えていきたいです。

今回は釜石遠征にいってきました。まず宝来館という場所で女将の話を聞きました。女将の話は体験談でもあり、非常にわかりやすかったです。特に大事なポイントとして、東日本大震災で大きな被害を与えたのが、津波です。津波について、ただ波が来ただけだと思いましたが、そんなレベルの被害ではありませんでした。一番おどろいたのは何度もくるということでした。女将の話に動画も加えながら見ているのでその力は伝わりました。木造の建物はほとんど残らず、何度も何度も破壊を繰り返していました。さらに女将はその津波にのまれたことがあるとおっしゃっていました。しかし女将は生きています。そこで女将は「あきらめたら終わり。あきらめずにもしかしたら助かるかもしれないと思えば続け、あきらめないことが大切だよ」とおっしゃっていました。これは、日常生活やラグビーでも言えることです。決してあきらめないことはどんな時でも必ず大事になると思うのでこの言葉を常に心にしておきたいです。

次に命をつなく未来館で、語り部の人の体験談をききました。その中で、一番おどろいたのは被害がもっと大きかったまわりの小、中学生の生存率です。なんと99.8%だそうです。当時、中学生だった語り部の方は「中学生も、小学生もどいて、自分達で考え避難した」とおっしゃっていました。どんなにパニックでもあせっても、ものを冷静に捉え、自分達で考え動くということを大切に避難したそうです。そのおかげでほとんどの小、中学生が生き残りました。率先して動いた結果が実を結んだのです。このことからぼくは、どんな状況でも自分から考え、率先して動くということを日常からやりたいと思いました。最後に糸羊マッチについてです。結果からいえば完敗です。しかし、ぼくはプレーだけでなく、日常生活からと中学生という意識をもて生活しなければならぬと思いました。例えば、時間が与えられたり、自分達の物をしっかりと管理で新しいなかりとチークのころからスワムにもつながってくると思いました。試合のプレーはとにかくまずは中学生という自覚を持ち、生活面から正していく。その場、ふさわしくないことをしたと、しっかりと声をあげる。個人だけでなく、チームとして、基本的なことから当たり前でできるようにしていく。そんなことをチームとして学べたい遠征になったと思います。しっかりと次へつないでいきたいです。

私が釜石遠征で学んだ事は主に3つあります。

1つ目は、どんな事が起きても冷静かつ、油断しない事です。今回たくさんのぎせいが出てしまったのは、世界一の防波堤があったため、油断が生まれ、にげおくれる人が出たと考えます。なので、私達はどんな備えがあっても冷静に判断し、すぐに避難する事が大切だと思います。

2つ目は、避難訓練の大切さを再認識する事ができました。

震災時、うのすまいの子供達の生着率が99.8%と、とても高い数値だったのは、普段の避難訓練から、子供達が自ら行動し、

わずか数分で避難を開始できたからだと思います。私は学校での避難訓練の際、どうせ訓練だからと、真面目に受けていなかったため、

今回の話を聞き、このときの子供達はすごいなと思、たのと同時に、私もこれからは避難訓練でも本当の災害が起きた時と同じよう緊張感を持ち、真検に取り組んでいく必要があるなと感じました。

3つ目はラグビーのプレーに関する事です。まず、守りの時、相手が突、込んできた際、

どうしてもにげごしになってしまい、なかなか止められなかったのでも、とにげずにタックルをしていく練習が必要と感じました。次に、ハンドリングミスについてです。雨とはいえ、

簡単なパスを落としてしまうなども、と基礎の練習を大切にした方が良く感じました。

最後に釜石の方々は地震により、大きな被害を受けましたとは思わせない程活気があり、私達を負けてられないと感じました。

ぼくがこの釜石遠征に行って思った事が
あります。

10日は、室来食官の人のお話して津波は、
青争すかに入ってくるパターンもあると
いってました。後は、全国共通の3m
というのとは、かからず30cm
〜30mのどれかは、来ると釜石の人々は、
思っている。と聞いて、この人は、
どう思っているんだか、と分
かった。

27日津波は、すどとまっばなしじやなく
て、ぐずぐずと、かど1回止まると、
かど波が、とんとんかきかきと、
大きくなっていくと、女将さんは、
言っていました。次にいのちを
つなく、未来館で言っていた事は、
ここに来た津波の高さは、11m
家が、つぶれ、ぐぐぐの高
さだ、と言っていた。おし波より、
引き波の方が、強いとまか
びました。

東日本大震災の津波を釜石に
あつ防波堤は6分もくつ時間
をおくさせた。

日曜日に、釜石シーウェイブス
と弘前サクラオーバルスの合同
チームと、単戦、38対5で負
ました。

負けた理由としては、自分達の
生活面、なと、ラグビー面
で、悪いところ、か、何個か
あつたから、コラ、コラ、結果
になつて、しまつたから、次
は、もっとよくなつて、い
ると、いいかと思
います。

釜石遠征最初の女かみの木舞言舌では東日本大震災で釜石市では何か起き、その後何かあったかという言葉を聞きました。東日本大震災が女台めおきてきたときには最初は弱い地震が長く続き、その後大きくなり女台め たんだんと津波もはっ生し女台め津波が弱いときは、世界一高いと言われる 防がなかったため皆油断しており、救助隊が一件、一件まわってだれか残っていないかを確認し、残っていたら声をかけたリしたが、中には(特に高齢者)後から、行くから、や、大丈夫でしょ、と言って家に残っている人も多かったそうです。それとたんだんと津波は強くなると最終的には、防をこえてしまい、家に残っていた、間に合えなかった人たちは少なからずなくなりました。また、行方不明になってしまったそうです。この女かみさんの言葉を聞くと世界一高い防でもかかるとこえてしまう津波が怖かったです。次に未来館では、釜石市の防災センターはなぜ知らなかったのかという話と防災センターでなぜ ぬなはに大ぜいの人たちがなくなってしまったのかという話を頂きました。防災センターが知らなかった理由は完結する(防災センターは川の近くにあるため川のほとりにはまきまね 防災センターは知れなくなりました。大ぜいの人たちがなくなった理由は、まずひなん川員練をしていてそのひなん川員練には人が集まらず(どうしようかと防災センターの職員たちが考えた結果防災センターでひなん川員練をしようとなっており、いつしかひなん川員練が人集めだけの行事になってしまい、防災センターはひなん川員練場所という異なった小報が 多くの人たちに発信されてしまい、そこに大ぜいの人たちがひなん川員練して、ほとんどの人がなくなりました。そんな糸色ほの情勢でいち早く来てくれたのケーブルニュースのチームの人たちで、地元のラグビーチームの試合をします。ブルーグラスの人たちは悲しみや不安を持たず、真けん勝負をするという心持で試合をします。結果はブルーグラスの勝ちでした。

チームの人たちにブルーグラスを対する目標を持たせたそうです。ほとんどの人はブルーグラスは糸色ほの情勢でいち早く来てくれたのケーブルニュースのチームの人たちで、地元のラグビーチームの試合をします。ブルーグラスの人たちは悲しみや不安を持たず、真けん勝負をするという心持で試合をします。結果はブルーグラスの勝ちでした。

僕はこの釜石遠征で東日本大震災のことについて改めて学ぶことができました。宝来食官では女将さんのお話を聞きました。女将さんが言っていた「次の世代の子たちが希望を持って住らせる環境を作る事」という言葉が特に印象に残りました。なので僕は静岡にもどたらこの言葉を家族や友達に伝えたいです。またいのちをつなぐ未来食官では、当時の東日本大震災の実際に体馬食した人の話や津波の恐ろしさを知りました。釜石遠征を通して一番大切したいことは釜石で得た情報を家族や友達だれでも良いので色々な人に発信することだと思っています。発信することによって色々な人が地震への気持が高まり、地震からくる被害者を少しでも減らすことができると感じたからです。僕たちが住んでいる静岡にはいつか必ず南海トラフ大地震くると言われています。南海トラフ大地震は静岡に大きな被害をもたらします。少しでも被害を小さくするには、早めの南海トラフ大地震への対策だと思っています。そのためにはやはり、色々な人が地震への気持を高めることだと思うので、静岡では小情報発信のミとをがんばりつつ、ラグビー、勉強などを負けないくらいがんばっていきたいです。釜石遠征に行けたのは色々な人の支援があるからこそだと思うので感謝の気持ちを持ってこれから生活をしていきたいと思っています。

僕は、この日で学んだことは、震災学習の宝来館での女将の講話と、いのちをつなぐ未来館での釜石祈りのパークでの話です。まず宝来館での女将の講話で学んだことは、静岡とかまいしには、根っこのつながりがあるということです。静岡とかまいしが根っこのつながりがあるたまたま知っていませんでした。他にも、全国共通のサイレンの「ウーッ、ウーッ」という音と、30mといったとてつもおそろしく高い波がくるおそれがあるということと、地上にたまっている水が、流れていっていることが分りづらい、海が見えないことで安心してしまう人たちが多いということです。

これを学んで思ったことは、全体に自分でも危ないなと思ったものは、自分から行動し自分でひなびることができるようにしたいです。これからいつじしんがくるか分りません。いつでも逃げられるように自分の身は自分で守れるようにしたいです。次にいのちをつなぐ未来館、釜石祈りのパークで学んだことは、押し波よりも引波の方が強いということ、全体的に何度も何度も繰り返して波がおそってくるということ、津波が来て2分後には30mもの高さにたつことがあること、わん口防はいいからと言って全体にゆたんしてはいけないこと、全体に地図を確認し、安全ルートに行くということを学びました。

これらを学んで思ったことは、ちょっとでも自分で危ないなと感じたら、地図で確認して安全なところに逃げられるように、いつでも地図が見られるように自分で何かあっても大丈夫なよう意識していきたいと思いました。

【大漁旗】

静岡と釜石の絆を繋げていく象徴として2022年に作成。

この大漁旗には、静岡の象徴の「富士山」と釜石の象徴の「はまゆり」を織り込んでいます。

また静岡ブルーレヴズと釜石シーウェイブス両エンブレムの間には、ラグビーボールを描き、ラグビーを通じて育んできた友情、絆を表現。

この先も静岡と釜石の絆を紡いでいくことができるようにと願いが込められています。



